

## 研究課題「HTLV-Ⅰウイルス感染及び成人T細胞白血病リンパ腫に対する免疫療法の開発」にご協力くださいました患者様へ

私どもは、HTLV-1ウイルス感染症、成人T細胞白血病(ATL)に対する体内の免疫の仕組みをより正確に理解し、その発症予防法やより良い治療法を開発することを目指し、平成27年より「HTLV-Ⅰウイルス感染及び成人T細胞白血病リンパ腫に対する免疫療法の開発」（承認番号：27-10-0615）を実施して参りました。このたび、その後続研究として「HTLV-1関連疾患におけるウイルス特異的細胞傷害性T細胞の性状解析」（承認番号：30-4-B0501）を行うことになりました。つきましては、「HTLV-1ウイルス感染及び成人T細胞白血病リンパ腫に対する免疫療法の開発」にてご提供いただき、同研究終了後の利用についてご同意いただきました試料・情報を、この研究にも利用させていただきたく存じます。

本研究に利用されることを希望されない場合には、ご遠慮なく、後掲の連絡窓口までご連絡ください。その場合でも患者様に不利益となることはありませんのでご安心ください。

**対象者：**「HTLV-Ⅰウイルス感染及び成人T細胞白血病リンパ腫に対する免疫療法の開発」（承認番号：27-10-0615）にご協力いただき、且つ、試料・情報の研究終了後の利用についてご同意いただいた患者様(HTLV-1キャリア、ATL患者様)

**試料・情報：**末梢血検体(凍結単核細胞)、診療情報（血液検査データ、臨床経過など）

**利用目的・方法：**HTLV-1ウイルス感染後の体の中では、ウイルスに感染した細胞を見つけて破壊する細胞傷害性リンパ球がいます。このリンパ球を英語の頭文字をとってCTLと呼びます。いわば免疫の実働部隊です。このCTLリンパ球の多くは数日間の寿命ですが、HTLV-1ウイルス感染細胞が、体内で活動的になった際に速やかに攻撃態勢に入れるように、一部のCTLリンパ球は何年も生きます。これをメモリー（記憶）T細胞と呼びます（HTLV-1ウイルスに対する免疫応答の‘記憶’を持っている細胞という意味です。）。このようなメモリーT細胞の中にウイルスやがんに対して素早く攻撃することが必要な時にCTLリンパ球を大量に生み出すもとなる幹細胞様メモリーT細胞という新たな細胞が、近年発見されました。ウイルスに対して素早く攻撃できるCTLリンパ球を大量に生み出すことができる細胞なので、治療への応用が期待されています。フローサイトメトリーという方法で、この幹細胞様メモリーT細胞を検出／採取し、機能を解析します。また、この細胞の核酸（遺伝子の情報を含む物質）を取り出し、遺伝子解析装置(シークエンサー)でT細胞受容体（HTLV-1ウイルス感染細胞を認識する部分）の遺伝子を調べます。得られたデータを臨床情報と併せて解析します。

**研究期間：**2018年5月1日～2022年9月30日まで

## 研究体制：

### 研究責任者：

氏名	所属	職名
田中 ゆきえ	東京医科歯科大学・リサーチコアセンター	助教

### 研究分担者：

氏名	所属	職名
小林 誠一郎	先端医療研究センター・分子療法分野	助教 (当院での研究責任者)
牧山 純也	附属病院・血液腫瘍内科	助教
内丸 薫	東京大大学院・新領域創成科学研究科 附属病院・血液腫瘍内科	教授 非常勤講師
山野 嘉久	聖マリアンナ医科大学大学院・先端医療開発学 同・難病治療研究センター 病因・病態解析部門	教授 センター長
佐藤 知雄	聖マリアンナ医科大学大学院・先端医療開発学	准教授

**お問い合わせ先：** 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡窓口までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ます。

### <本研究に関する連絡窓口>

内丸 薫

(東京大学医科学研究所附属病院・血液腫瘍内科・非常勤講師・HTLV-1キャリア専門外来担当、  
東京大学大学院・新領域創成科学研究科・メディカル情報生命専攻・教授)

e-mail: [uchimaru@cbms.k.u-tokyo.ac.jp](mailto:uchimaru@cbms.k.u-tokyo.ac.jp)

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

電話：03-5449-5298

FAX：03-5449-5418

(当院での研究責任者：小林誠一郎 東京大学医科学研究所・分子療法分野・助教)